

## 7月17日開催 市長とドンドン語ろう！江津湖版（議事録）

### ◎市長挨拶

本日、「市長とドンドン語ろう！江津湖版」を開催するが、このドンドン語ろうというのは、市民の皆様と色々な話をしながら提案などをお聞きして、各部局の政策にしっかり反映させるためのヒントを得る機会としている。これまでは忌憚のない意見を伺えるようにテーマを決めずに開催していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、多くの人を集めるのは難しい状況なので、テーマを絞って開催することとした。本日は江津湖版という事で、江津湖に関して意見交換させていただくことで、皆様の意見を市の政策に活かし、皆様が満足できるような取組に繋げていきたい。

全国には20の大きい都市があり、熊本市はその一つであるが、これだけ都市化が進んだ中、市街地にこのような自然湖が残っているのは非常に珍しい。江津湖は熊本市のオアシスと言われており、私も白川小学校出身で、子供の頃は朝から自転車で江津湖に遊びに来ていた。その頃と比べると、水質や環境が変わってきていると思っており、今日は意見交換をしながら、どのように自然環境を再生させていくか、そして、みんなのオアシスを未来に繋いでいくためにはどうしたらいいのか話していきたい。

また、来春には緑と花の博覧会と言われる全国都市緑化フェアが熊本で開催される。熊本では昭和61年に開催されて以来であり、全国から多くの方がお越しになる大きなイベントとなる。前回開催時とは環境も考え方も変わっており、お祭り騒ぎのように人が集まれば良いということではなく、会場となっている熊本城のシンボルプロムナード、立田山、江津湖といった熊本の魅力を、全国に発信する拠点としてどのように作りあげていくのが求められている。さらに熊本地震の時に支援をしていただいた多くの方に、感謝の気持ちを伝えていくことが大事だと考えている。このフェアが終わった後に、森の都と呼ばれている熊本の自然をどのように守っていくのか、皆様と話し合っていきたい。

### ◎市長講話

#### ●テーマ1 江津湖の魅力と課題 ～みんなで考える江津湖の今～

水前寺江津湖公園は熊本市の中心部から南東に約5kmの所に位置し、面積は126.9ha（東京ドーム27個分）、東西2km、南北3.5km、湖面面積が50haで一日57万トンの湧水量（令和2年度）を誇る。都市公園100選、名水100選、重要湿地500にも選定された歴史と文化に溢れた地域である。水前寺江津湖公園の利用者は年間約10万人で、広木公園の利用者が過半数を占める。

熊本市動植物園は元々水前寺成趣園の近くにあったが、昭和44年7月に現在の場所に移転し、動物122種645点、植物455種82,449本と非常に多くの動物と植物を見ていただける。来年には地震で被災した正面ゲートのリニューアルも終了し、レッサーパンダを迎える

準備も進めている。本日参加されている皆様にも、新しく宿る命を見ていただきたい。

水前寺成趣園については、熊本城と並ぶ重要な観光拠点であり、今年は完成から 350 年の記念の年として、シンポジウム等が予定されている。水前寺という地名は県外でもよく知られており、水前寺もやしや水前寺菜など地名を冠した野菜も多く残っている。水前寺では様々な催しが行われており、中でも藻器堀川の清掃活動などは江津湖の環境を守るために多くの方が参加されている。

江津湖では花火大会も開催されており、私が市長になるまでは長い間中止されていたのだが、マニフェストで掲げたとおり復活することができた。昨年に引き続き今年も新型コロナの影響で中止することとなったが、来年には開催できればと考えている。

江津湖の知名度は県外ではあまり高くないため、色々アイデアを出してもらい、知名度の向上を図っている。市民のオアシスである江津湖だが、抱えている問題もあり、その中でも自然環境の問題に触れていく。

昭和 37 年の最盛期には 87 万トンあった湧水量も、平成 17 年頃には半分以下にまで減少した。白川中流域での水田湛水事業や水源かん養林の整備など、地下へ水を浸透させる取組を進めており、近年は少しずつだが回復傾向にある。下水道の整備も進んだことから、水質はずいぶん改善されてきたが、まだまだ良くなったとまでは言えない状況である。江津湖には固有の在来種が減少し、オオクチバス（ブラックバス）などの外来種の増加が問題となっている。その対策として、ショッカー船で気絶させて駆除したり、魚釣りで釣り上げた方に回収してもらうようお願いするなどの取組も行っている。

ここまで、テーマ 1 として江津湖の魅力や課題について簡単に説明したが、「江津湖の魅力」、「江津湖の自慢できるところ」、「どういったところを変えたほうがいいか」という観点からご意見をいただければと思う。

## ◎意見交換

### 市民 A

家の窓を開けると沢山の緑と江津湖が見えており、夏の暑い日はよく川遊びをする。江津湖の水は冷たく、足を入れるととても気持ちがいい。水が湧き出しているところでは、小さな魚やエビが見られて、とてもいいと思う。

蛍の季節には、江津湖へ蛍を見に行く。クリスマスツリーのように木がピカピカ光っていて、私の肩に蛍がとまったことが一番の思い出である。

私たちの小学校では 5 年生で水生生物の調査を行った。小学校の中を流れる川は江津湖と繋がっていて、綺麗な川に生息する水生生物を確認することができた。これは江津湖の自慢できることだと思う。

### 市民 B

江津湖の魅力はメダカ、オイカワ、カワセミなど多様な生き物を見つけることができるこ

と。

また、小学校の中を流れる川は江津湖と繋がっていて、水が湧き出ているので水に恵まれていることが自慢だと思う。

### 市民 C

江津湖についてのアンケートを学校で実施した結果、江津湖の魅力の第1位は「自然」であった。季節によって四季折々の自然に触れられることや、蛍やカワセミなど他の場所では見られない生物が見られるという意見が多く見られた。

また、人とのふれあいという点で、敷地が広く小さな子どもから高齢者まで、多くの人が楽しく過ごすことができるといった意見や、体を使った遊びとしてボートに乗れたり、サイクリング、ランニング、魚釣りなどを楽しむことができるといった意見も多かった。私も釣りをするが、友人がウナギを釣ったりしているので、いつか自分も釣ってみたいと頑張っている。

その他にも、夏が涼しいことや、地域の人たちが協力して綺麗に保たれていること等の意見があった。

### 市民 D

アンケートの中で、現在の江津湖で変えたほうが良い所として、整備についての意見が多かった。中でもゾウさんプールは、老朽化が激しく遊びにくい状態であるとの意見が多く見られた。一風景としてただ通り過ぎてしまっているため、「プールを新しくしてほしい」、「草が生い茂っている」といった意見が多い。

また、飛び込みをしている人がいるとの意見も寄せられており、利用する全ての人が気持ちよく過ごせるように、より厳しく取り締まるなどルールを作って広めることが重要。

私たちの中学校では、部活動生を中心に江津湖清掃に毎年参加している。例年ごみが見当たらず、思ったほど集まらないが、水の中を清掃されている方を見ると、いつも袋一杯にごみを拾っている。水面からは分からないが、水中には多くのごみが蓄積していると感じた。

### 市民 E

南北二つの湖が繋がっており、場所によって様々な水生生物が見られるところが江津湖の魅力であり、公園内の道は生活道として活用されている。

私は下江津湖の近くに住んでおり、改善してほしいところがある。市長から外来種の回収ボックスの話があったが、回収ボックスが公園の内部側に設置されているため、釣った魚を回収ボックスまで持っていく事に面倒なイメージがある。水辺側に回収ボックスを設置することで、より回収率が上がるのではないだろうかと思う。

## 市民 F

市中心部に近い住宅地の中にあり、すぐに行くことができ、希少な生物も見ることができる自然豊かな江津湖。これだけのものが入場料も不要で、誰でもいつでも利用できる場所はすごいと思う。私も高校で生物部に入部し、下江津には魚を釣りによく行っていた。

江津湖で変えた方がよい所としては、江津湖に直接手を加えるというより、周辺の川から流れてくるごみ等のことを考えれば、地域や市民全般に江津湖のごみや水質などの環境問題について、学んでもらえるような活動をするべきだと考えている。江津湖の自然に実際に携わっている人達が、市内の小・中学校に赴き、今現在の江津湖の状況を子ども達に伝え、子ども達が家に帰って家族に話をする事で、各家庭でもそのような話ができるような取組が大事だと思う。

## 市民 G

私の会社は地域貢献・社会貢献を僅かながら行っており、毎年、水前寺成趣園の中で清掃活動を行っている。

他県に住んでいた際に、茶色く水質が悪そうな川で高校生や大学生がボートの練習をしていたことを考えると、江津湖の綺麗な水辺環境で高校生・大学生がボートの練習をしている姿は、とても魅力的な光景だと思う。

毎日、水前寺江津湖公園でランニングをしており、綺麗だと感じている。水草などを定期的に駆除されていると思うが、駆除のために回収した水草をバイオ燃料などに活用できないだろうかと考えている。

他にも、自転車で通勤する際にロードバイクなどが最近は増えたと感じている。江津湖にはウォーキングやノルディックのコースは既に設置されているので、子供が自転車を練習する場所やサイクリングコースなどがあればもっと良いと思う。

## 市民 H

私は、生まれも育ちも画図で、高校時代はボート部に所属し、毎日を江津湖で過ごしてきた。江津湖は車のアクセスもいいし、子供も連れて気軽に自然に触れあえる場所。特に、ホタルや夏の風物詩である花火大会などとても魅力が多いと思っている。

昨年、今年と中止になったが、来年の花火大会は開催されることを期待している。また、遊具など子ども達が遊ぶスペースができたり、出店などがあれば、より出かけやすく笑顔があふれる場所になっていくと思う。

## 市民 I

私は 15 年前から熊本に住んでいる。冷房がない生活をしているので、真夏になるとシュノーケリングをしに江津湖に行くが、水中が汚れていることがよくわかる。また、江津湖では猫に餌を与える人をよく見かけ、その影響で芝生に糞がよく落ちている。

他にも、公園内の道路には凹凸があり、夜などは暗く危ないので、最近では坪井川緑地公園に行くようになった。坪井川緑地公園には懸垂する機具等が設置されているので、市民の健康増進のため、水前寺江津湖公園にも設置してみてもどうかだろうか。

### 市民J

大学の留学生たちにアンケートを取った。その結果、江津湖のイメージとして「綺麗」といった意見の次に、ごみ箱が足りない、少ないといった意見が多かった。

他にも、江津湖自体を知らないといった意見も多数あったので、留学生に江津湖の情報がうまく届いていないと感じた。留学生などの外国人にも広く認知してもらうために、情報発信に課題があると思う。

### 市民K

江津湖の近くに長年住んでおり、子どもの頃から江津湖に親しんできた。全国の湧水池を見てきたが、江津湖は湧水池でありながら、河川のように水が流れているため、様々な動植物が生息する全国的にも稀有な場所である。

ただ、近年ではその魅力も薄れてきている。水質の悪化や色々な構造物などが原因であり、そこには非常に多くの問題がある。昔、高ぼうきで振り落とすぐらい沢山いた蜚は、近年、姿を見ることはなくなった。水前寺のりの養殖池には泥のような苔が生え、最近では清掃作業すら行われなくなっている。昔は普通に見られていたゾウさんプールで遊ぶ子供たちの姿は、もう何年も見ていない。

また、湧水量も以前と比べて10分の1ぐらいになっている。森の都、水の都、熊本城、この3点の魅力を充実させることは熊本市にとっても大事なことだと思う。そのためにも、湧水量の減少について、この危機的状況に対応するための専門家集団を市役所内に作ってほしい。

### 市民L

江津湖はこれまでに3回大きく変わった。

最初は昭和28年の「6.26水害」の時、それ以前は斉藤橋あたりでも湖底まで見えていたため、フナやハエなどが泳いでいる姿も上から確認することができた。周辺からの生活排水や工場からの汚水などが湖を汚染したため、今では湖底まで見ることは出来なくなっている。

その他にも昭和38年ごろに変わっている。

それまでは湧水量に大きな変化は見られなかったが、遊歩道が整備された時と下水道工事が行われた時に湧水量が大きく減ってしまった。電車通りの下水道工事で流れてくる水脈を泥でふさいでしまったからだと考えている。

電車通りに大きな下水管を入れた後、電車通りの西側に十数か所にあった池は全て枯れ

てしまい、東側から神水苑までの間まではかろうじて湧き出ている状況となってしまった。

## 市長

皆様から色々と良いご意見を出していただいたので、いくつかポイントを押さえてお答えしていく。

アンケートの結果でも多くみられたという「自然を守ってほしい」というキーワードは、我々も含め海外の方や小・中・高校生など幅広い層から同様の意見が聞かれており、みんなの関心が最も強いと改めて確認することができた。

他にも、例えばゾウさんプールの件など、環境を良くしてほしいとの意見もあった。古くなった遊具がそのままになっていて整備されていなかったりすると、自然環境の悪化と一緒に、整備が行き届いていないと魅力もなくなってしまうので、本日、皆様からいただいたご意見は再度確認していく。

中でも、以前はゾウさんプールで沢山の子供たちが遊んでいたのに、今では遊んでいる子供の姿は見られないという事実は、利用者等に実際の声を聴き、その理由を確認していく必要があると考えている。

また、外来種の回収ボックスの位置が水辺側にあったほうが良いといったご意見など、市役所の取組の中でも、気づいていないことがあることが分かった。

江津湖を研究している方や江津湖に関わっている方が、学校教育の中で話をしていくということは、非常に大事なことだと思う。江津湖には、生物や自然環境のみならず歴史や文化等もあり、話すテーマは色々あるので、学びや研究に繋げ続けていくことが大事だと改めて感じた。

自然と触れ合いながら、運動ができるようにサイクリングコースやランニングコースなどを、みんなが楽しめるように整備していくことも大事である。

ごみ箱の件については、ごみ箱を増やせばごみも増えるということから、改めてごみ箱を設置することは難しいと思う。復活させた花火大会でも、開催後に大量のごみが発生するようであれば、次年度以降の開催は中止することも考えていたのだが、懸念していた大量のごみが発生することは無かった。

そのことから、江津湖を大事にしようと考えている人は非常に多いと感じており、他都市の公園と比べて、自分たちのごみは自分たちで持ち帰ることをみんなが心掛けているのだと思う。

犬猫による糞や飛び込みなどのマナーの問題は、パトロールなどを通じてルールをきちんと守り、みんなが快適に使えるように啓発していきたいと思う。

他にも、外国語表記が少なく分かりにくいとのことであったが、あまりベタベタ案内すればいいというものではないと思うので、案内板の外観を統一するなど、外国の方にも分かりやすい工夫を進めている。

長年、江津湖と共に生活されてきた中で、昔はホテルをほうきではたき落としていたと伺

ったが、そのような光景を見てみたい。最近、庄口公園の辺りではホタルもかなり増えてきており、皆様が様々な活動をしていただいたおかげだと思う。

湖や地下水を研究する機関があったらということだが、それは私もとても重要だと考えており、平成24年には地下水財団を作った。この財団は江津湖だけではなく、熊本全体の地下水を守っていく事を目的としているが、その中でも江津湖はテーマとして掘り下げ、東海大学や熊本大学など、色々な先生方が研究して下さっており、地元や熊本市役所の内部としっかり繋いでいく体制をとることが重要である。

江津湖はこれまでに三回の節目があったとお伺いしたが、水害の時の江津湖の状態であるとか、遊歩道が整備された時や下水道が整備された時に江津湖にどのような影響が出たのかなど、研究していく中に改善のヒントが隠されているのかもしれないと考えている。

## ◎市長講話

### ●テーマ2 江津湖の未来を考える ～緑化フェアをとoshた未来の姿～

全国都市緑化フェアは、国民一人一人が緑の大切さを再確認することをテーマとして、全国各地で毎年開催されているフェアである。熊本では昭和61年に開催されたクマモトグリーンピック以来、36年ぶりの開催となり、前回開催時には、動物園の中に植物園を造り現在の動植物園となった。

来年3月19日から5月22日まで65日間、「森の都」の魅力再発見と「森と水の都」の発信、熊本地震への支援に対する感謝と復興のメッセージ、未来への響～未来へつなぐ、つなげる～を基本理念として開催する。

会場は、「街なかエリア」として熊本城公園及び花畑広場一帯、「水辺エリア」として動植物園を含む水前寺江津湖公園一帯、「まち山エリア」として立田山となっている。私も立田山を見に行ったが、このような恵まれた環境をどうすれば皆様に見に来ていただけるのか、そしてこれは本市だけで完結させるのではなく、熊本県全体の花や緑の名所など各所の皆様にもご協力いただき取り組んでいきたい。水辺エリアでは水前寺成趣園の歴史や文化、魅力を発信するとともに、上江津、出水、動植物園、広木の各エリアでは、様々な催しを実施していく。中でも動植物園と江津湖はこれまで割と分断されていたのだが、動植物園の南門付近に展望デッキを整備することで、皆様に一体的にご覧いただけるよう進めていく。

また、江津湖の情報を知っていただくためにも、情報の集積・発信拠点としてインフォメーションセンターの整備も行っている。併せて、案内板の話については邪魔になることがないよう、環境に配慮しつつ多言語で作製し、他にも、環境調査として、外来種や湧水の調査もしっかりやっていく。トイレなど老朽化しているところもリニューアルし、バリアフリー化や防犯カメラの設置など、きちんと安全性の高いものに再整備し、災害が起こった際でも安心して利用できるようにしていく。

緑化フェアは、江津湖に注目していただく良い機会であるので、「江津湖の魅力をどのように発信するといいか?」、「10年・20年後の未来に江津湖はどのような姿であってほしい

か?」、「そのためにどういった工夫や取組があるといいか?」を皆様にお伺いしたいと思う。

## ◎意見交換

### 市民 K

緑化フェアと一緒に、アジアパシフィックウォーターサミットが開催されるが、ウォーターサミットはグローバルに熊本市と江津湖を PR することが出来る絶好のチャンスだと思っている。参加国の中には、水に困っている国も見られるので、熊本の豊富な湧水を活用した研修を通じ交流するなど、熊本市や江津湖の水資源のすばらしさを世界に理解していただく、絶好のチャンスとしていただきたい。

### 市民 D

江津湖の魅力を発信する方法として、スタンプラリーを実施してはどうだろうか。広木公園からスタートし、各スタンプスポットでは、江津湖の魅力を伝えるために、QR コードなどを活用して情報を発信していくことで、江津湖の魅力はもっと広がると思う。

### 市民 C

沢山の人が集まる江津湖にするために、ゾウさんプールを改装してはどうだろうか。現在のゾウさんプールは少し物足りない印象を受けている。熊本を象徴するような模様やカラーバリエーションのゾウさん滑り台を増やしてはどうだろうか。こういう場所に若い人たちが訪れ、熊本の魅力を知ることによって更に人が集まる江津湖になっていくと思う。

### 市民 L

ゾウさんプールや水前寺海苔などの話があったが、15 年ぐらい前までは珍しいものではなかった。現在は水質そのものが変わったため、水前寺海苔ではなく、全然違う種類の緑の苔などが生えるようになっている。

上江津湖では、4 月 16 日にはホタルが出ていることを地震の時に知った。5 月連休ぐらいから出てくるものだと思っていたので驚いた。6 月終わりまで見られるゲンジボタルが世間では注目されているが、7 月から出てくるヘイケボタルが今では見られなくなっている。日本中探しても、ゲンジボタルとヘイケボタルが同じ場所でみられるところは少ない。

最近のカワセミのことばかり言われているが、以前はよく見られたアカショウビンが最近では見られなくなった。

江津湖に大きな木がなくなり、フクロウが住むところがなくなってしまった。以前はフクロウからの攻撃を避けるため、追いかけられたカワセミが人間の近くまで逃げる姿も見られた。

## 市民 A

変えてほしい所として、江津湖清掃に参加しているがお菓子の袋や空き缶がたくさん落ちていたりするので、一人一人が心掛けていく必要があると思う。

江津湖の魅力発信について、たくさんのイベントを開いたり、江津湖に生息している生物を見られる小さな水族館を作ったら、より江津湖の魅力を知ってもらえると思う。

10年後の江津湖について近くに住んでいて思う事は、高齢者が散歩をしていたり子どもたちがボートに乗ったり、水遊びやペットのお散歩コースになっているなど、どの世代も楽しめる憩いの場であってほしいと思う。そのためにも、江津湖清掃について一人一人の綺麗にしようといった意識が大事だと思う。

## 市民 B

ゾウさんプールのゾウの滑り台が古くなっているの、そこに新しい遊び場を作れば、みんなが訪れるようになるのではないかな。

江津湖に生息している鳥、魚、昆虫を看板に乗せ、遊歩道の所に転々と設置すれば自然の動物園のようになり、もっと江津湖を知ってもらえるのではないだろうか。

10年後の江津湖は、外来種が減り、タナゴなどの在来種が多い江津湖であってほしい。在来種を増やすために、卵を産ませて養殖場のようところで成長させた後、江津湖に戻していくといいと思う。

## 市民 F

江津湖の未来の姿として、こうなってほしいという具体的なものがあるわけではないが、市民に大切にされる江津湖であってほしいと思う。

江津湖自体が尊重され、環境を大切に守っていきたいと思われるような姿であるために、他の自治体の取組を参考にしてはどうだろうか。

## 市民 E

以前住んでいた福岡県の遠賀川に水辺館という施設があって、遠賀川の環境・文化など様々な情報を発信していた。そこではキャンプや自然観察や釣りなどのイベントが開催されており、よく利用していた。江津湖にもそういった施設があると良いと思う。

江津湖には湧水池があるが、その上流の水源まで皆の意識がいくような情報発信をすることで、江津湖だけではなく広域的に自然環境を守ることに繋がっていくのではないだろうか。

また、環境評価の中に湧水量や外来生物などの項目があるが、この調査結果をどのように生かすかが大事。護岸工事などは、防災の観点からは必要だと思うが、実際にコンクリートで固めしまったことで、オオカナダモが減少しメダカの産卵する場所が激減したという話もある。

江津湖が江津湖らしく存続するために、訪れた一人一人が、綺麗だ、涼しげだという感想で終わるのではなく、自然環境に関する視点で引き続き江津湖を見てもらうことが必要だと思う。

### 市民K

動植物園のところに老朽化したボートハウスがあるのだが、ボートハウスとしての機能だけではなく、水の博物館のような市民が水に親しむ拠点があると良いと思う。

また、江津湖から有明海の堤防まで、加勢川の左岸を自転車で行くことができるので、そういうことを活用したサイクリングイベントなどの取組もあっていいと思う。

上江津湖にある二つの島は、昭和 28 年の 6.26 水害の時に市内の土砂を投げ込んだ影響で流れが変わり島になったものである。今の人たちはそのことを知らないが、そういった歴史を知っていくことも大事だと思う。

### 市民H

全国都市緑化フェアの開催に合わせ、県民や市民から募集してゆるキャラを作ってはどうか。また、江津湖のイメージソングを作って、お昼の時間や夕方の時間に毎日流してみてもどうだろうか。

将来的にはダンスや体操などの振り付けをして、地域の小学校や中学校の体育の授業で活用すれば、江津湖を大切に作る気持ちが未来に繋がっていくのではないかな。

### 市民J

熊本大学の外国人に行ったアンケート結果で、江津湖についてあまり知らないといった意見が多く見られたので、ソーシャルメディアを通じた宣伝や、駅やバスターミナルで多言語のパンフレットを配布してはどうだろうか。

また、江津湖は気軽に行ける場所であってほしいので、外国人観光客などが利用する公共交通機関だけではなく、広大な江津湖を見てもらえるように、江津湖に自転車のシェアサービスがあればいいと思う。

緑化フェアは環境意識を高めるのに良いと思う。

### 市民I

江津湖にはマスコットキャラクターがないので、江津湖をよりよく知ってもらうために、市内の小学生たちにマスコットキャラクターのデザインを募集してはどうか。

鹿児島県の石田湖ではエッシーが有名で、江津湖を上から見るとスコットランドのネッシーによく似た形をしている。県外海外へ向けてマスコットとして江津湖のエッシーをデザインしてマスコットキャラクターを作ってはどうか。

## 市民L

今の江津湖はコンクリートが目につき、良い絵にならない。とにかく自然が良く見える絵になるような姿にしてほしい。

## 市長

本日は沢山のご意見やアイデア、課題をいただいた。

私たちが今まで着目していなかった点もご提案いただいたので、市役所各部署で研究しながら対応していきたい。

皆様が共通してお話になっていたのが、いかに自然環境を守るのかと言ったところで、景観や生態系をいかに守り、この江津湖の環境・魅力を県民・市民を始め多くの人に知っていただくような取組を進めていきたい。

江津湖が江津湖らしく尊重されるという良い言葉を本日はいただいた。都市緑化フェアを、環境を保全していく、良くするための変換点としていきたい。

ネッシーではなく江津湖のエッシーなど、色々な見方がある中で、多くの人に知ってもらうことが必要。

そしてもう一度、歴史をよく振り返らなければならない。私も昭和28年の6.26水害の時に江津湖がどのような扱いを受けたのかも含め、知らないこともあった。上江津湖の島がどのようにしてできたのか、良い歴史もあれば、こういった悲しい歴史もある中で、それが今の現況になっているので、成り立ちとして詳しく知る必要があると思う。皆様と一緒に学びながら進めていきたい。

そして、皆様が訪れて快適であるかということも大事であり、路面が凸凹、照明が暗く危ないなどの意見があったが、その辺も含めバランスをとっていく必要がある。

ゾウさんプールの件は色々魅力的な場所になるように、水質が以前とは変わってしまったため、生える苔が変わったなどの話も含め環境調査を進め改善していきたい。

水の博物館の整備についてもお話をいただいたが、具体的な計画はないものの、実は動植物園の資料館に現在も水槽があり、タナゴやドジョウ、ミナミメダカなどの飼育、繁殖活動を進めている。現状、あまり知られていないが、緑化フェアにあわせ皆様に広く見ていただくよう進めていきたい。

本日いただいた沢山のご意見を参考にしながら、自然を守り生態系の回復を目指す環境活動の拠点として、また、ゾウさんプールなど老朽化への対策など、これまで以上に広い視点で、より良い水辺環境を目指していきたいと思う。

本日は、本当にお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ありがとうございました。